

学習指導要領の改訂に向けた動きなど
お役立ち Hot 情報をお届けするニュースレター

きょうせい プレス

平成 28 (2016) 年 7 月 7 日

第 18 号

発行 株式会社きょうせい

(隔週木曜発行)

〒136-8575 東京都江東区新木場 1-18-11

フリーコール 0120-953-431

フリー FAX 0120-953-495

Web サイト <http://gyosei.jp>

e-mail Eigyo-edu@gyosei.co.jp

「きょうせい」は、学校教育に携わる皆様のため、教育行政・学校学級経営・教科教育・授業づくりに関する書籍をはじめ、様々なコンテンツをご提供しています。

学校における外国人児童生徒等に対する教育支援に関する有識者会議

外国人児童生徒等に対する教育支援の充実方策について提言

文部科学省が平成 27 年 11 月に設置した「学校における外国人児童生徒等に対する教育支援に関する有識者会議」(座長:佐藤郡衛・目白大学学長)は、6 回の審議を経て、このほど「提言」をとりまとめた(6 月 28 日公表)。

平成 26 年 5 月現在、公立の小・中・高等学校等に在籍する外国人児童生徒は 73,289 名、このうち「日本語指導が必要な外国人児童生徒」は約 4 割の 29,198 名。さらに「日本語指導が必要な日本国籍を有する児童生徒」7,897 名と合わせると、「日本語指導が必要な児童生徒」は 37,095 名となっており、10 年間で 1.6 倍に増加している。

地域分布については、都道府県別の在籍児童生徒数の上位 6 都府県(愛知、神奈川、東京、静岡、大阪、三重)の合計が全体の 6 割を占める。日本語指導が必要な児童生徒が 1 名以上在籍する公立小・中学校数は全体の 2 割、市区町村数は全体の 5 割に上る。

児童生徒の背景の多様化・複雑化も進んでいる。児童生徒の母語は、フィリピン語、ベトナム語、および「その他」の言語(文科省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」における主要 7 言語=ポルトガル語、中国語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語、英語、韓国・朝鮮語=以外の言語)が増加傾向にあり、母語の多様化が進んでいる。さらに、国際結婚の増加等を背景

に、日本国籍・二重国籍の児童生徒数が急増。在留外国人が学齢期の途中で母国から子どもを呼び寄せる例など、日本における就学のタイミングも様々となっており、日本語のみならず母語の習得にも課題を抱える児童生徒もいる。

本有識者会議「提言」では、これらの現状とこれまでの取組の成果と課題を整理したうえで、国・地方公共団体・学校等が今後 5 年間程度を目途に取り組むべき施策の基本的な方向性が示されている。提言の具体的な柱は次のとおり。

【指導体制の整備】

①「拠点校」等を中心とした指導体制の構築 ②地域の NPO、国際交流協会、大学、社会教育・福祉等の関係機関との連携体制の構築 ③外国人児童生徒等教育を担当する教員の配置の拡充 ④日本語指導や母語による支援を行う支援員の人材確保・配置の推進

【教員・支援員等の養成・確保】

①外国人児童生徒等教育を担う教員の養成及び現職教員の研修の充実 ②外国人児童生徒等教育に関する専門性・意欲を有する教員の採用・配置 ③日本語指導や母語による支援を行う支援員の育成

【指導内容の充実・改善】

①「JSL カリキュラム*」及び「特別の教育課程」による指導の普及(*日本語と教科の統合的指導を取り出しで行い、授業に参加できる力の育成を目指す文科省開発のモデル・プログラム) ②就学前・初期段階からのきめ細かな初期日本語指導の実施 ③外国人児童生徒等教育のための教材の充実

【就学・進学・就職の促進】

①外国人の子供等の就学促進 ②外国人生徒等の高校進学の促進 ③外国人生徒等の社会的・経済的自立のための教育の推進

外国人児童生徒等教育は、学校が抱える諸問題への対応というように受け身で捉えるのではなく、グローバル化社会における異文化理解・多文化共生実現の鍵として積極的な意義を見出している点が大きな特徴だ。

学校変革の決め手

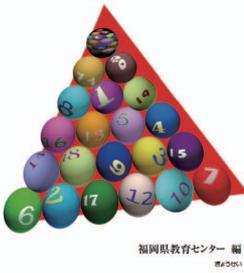
学校のチーム化を目指すミドルリーダー 20の行動様式

7月13日刊行予定 ご予約承り中!

福岡県教育センター／編

A4判・定価(本体2,000円+税) 送料350円

学校変革の決め手
学校のチーム化を目指すミドルリーダー
20の行動様式



主幹教諭・学年主任・研究主任などのミドル層はもとより、ミドルを育てるリーダーにとっても必読!

●ミドル・アップタウン・マネジメント 教職員の大量退職・大量採用時代。管理職やベテランと若手をつなぐミドルリーダーの役割が注目されています。

●20の行動様式 学力・授業力・学校運営力。教職員がチーム力を発揮して動くために、ミドルリーダーはどのように行動すべきか。20の行動様式を事例をもとに解き明かします。

●学校のチーム化 学校運営の新しい核となる主幹教諭・主任層を対象に「リーダー」「マネージャー」「メンター」機能を取り上げ、様々な具体例等をもとに、「チーム」としての学校づくりを提案します。



7月 ◆7日 七夕/小暑(2016) ◆8日 なはの日(那覇)/外務省開庁記念日
◆9日 ジェットコースターの日 ◆10日 ウルトラマンの日/納豆の日 ◆11日 世界人口デー ◆12日 人間ドックの日 ◆13日 生命尊重の日 ◆14日 ペリー上陸記念日/廃藩置県の日 ◆15日 大阪港開港記念日/盂蘭盆会 ◆16日 国土交通Day ◆17日 ポツダム会談開始(1945)
◆18日 第40回衆議院議員総選挙、55年体制崩壊(1993)/海の日(2016) ◆19日 サイボーグ009の日 ◆20日 アポロ11号月面着陸(1969)/ハンバーガーの日 ◆21日 日本三景の日(松島・天橋立・宮島)
◆22日 ナツツの日/大暑(2016) ◆23日 文月ふみの日 ◆24日 河童忌(芥川龍之介の忌日) ◆25日 かき氷の日 ◆26日 幽霊の日 ◆27日 スイカの日 ◆28日 葉っぱの日 ◆29日 アマチュア無線の日 ◆30日 プロレス記念日 ◆31日 蓄音機の日

■7/7~7/31 生まれの著名人(敬称略)

7月 マルク・シャガール(7日)、塩野七生(7日)、東山魁夷(8日)、三谷幸喜(8日)、稲垣潤一(9日)、久本雅美(9日)、沢村一樹(10日)、小泉孝太郎(10日)、徳川光圀(11日)[和暦6月10日]、藤井フミヤ(11日)、モディリアーニ(12日)、マララ・ユサフザイ[2014、17歳でノーベル平和賞受賞](12日)、堺屋太一(13日)、中森明菜(13日)、グスタフ・クリムト(14日)、水谷豊(14日)、レンブラント(15日)、今宮健太(15日)、アムンセン[1911、人類初南極点到達](16日)、古川登志夫(16日)、大竹しのぶ(17日)、北村一輝(17日)、ネルソン・マンデラ(18日)、広末涼子(18日)、エドガー・ドガ(19日)、宮藤官九郎(19日)、メンデル(20日)、間寛平(20日)、ヘミングウェイ(21日)、船越英一郎(21日)、原辰徳(22日)、内村光良(22日)、松方弘樹(23日)、ダニエル・ラドクリフ(23日)、谷崎潤一郎(24日)、久保田利伸(24日)、中村紘子(25日)、ジャガー横田(25日)、ユング(26日)、桜庭一樹(26日)、山本有三(27日)、かわぐちかいじ(27日)、ピートルクス・ポター[ピーターラビット作者](28日)、渡瀬恒彦(28日)、山田久志(29日)、秋吉久美子(29日)、ヘンリー・ムーア(30日)、新美南吉(30日)、柳田國男(31日)、古谷徹(31日)

大好評発売中!
月刊シリーズ
(全12巻)

新教育課程ライブラリ

Vol.7 これからの授業力と研修

A4判
各巻定価 本体 1,350円+税
セット定価 本体 16,200円+税(12巻セット)

Vol.7
7月19日刊

■特集—これからの授業力と研修

●解説

○いま、教員に求められる資質・能力と研修(村川雅弘) / ○これからの授業力とは何か(江間史明) / ○アクティブ・ラーニングを実現する協調学習—知識構成型ジグソー法を使った授業づくり(飯窪真也) / ○資質・能力の育成と総合的な学習の見直し(田村 学) / ○新教科・道徳のカリキュラムづくり(押谷由夫) / ○発達段階に応じた外国語の授業づくり(直山木綿子) / ○資質・能力の育成と学習環境—一人ひとりの学びを保障する手立て(角屋重樹)

●事例

○知識構成型ジグソー法を活用した「学び合い」の授業(和歌山県湯浅町立湯浅小学校) / ○本校における協調学習について(埼玉県戸田市立笹目中学校) / ○主体的に地域と関わる総合的な学習の時間の具体化に向けて(青森県今別町立今別中学校) / ○新教科・道徳によるカリキュラム・マネジメント(東京都北区立飛鳥中学校) / ○〈ABK学習室〉をシンボルスペースにした「枠」を拡げる学びのデザイン(神奈川県川崎市立東菅小学校)

●提言

○「子どもを見る目」で授業力を磨く(横須賀 薫)

■連載

○新課程を生かすカリキュラム・マネジメント(天笠 茂)
○「育ち」と「学び」をつなげる授業(奈須正裕)
○実践!アクティブ・ラーニング研修(村川雅弘)
○ミドルリーダーが創るこれからの学校(大脇康弘)
○学校改革の新定石(西留安雄) ほか

次々号

Vol.8 特別支援教育の実践課題
—8月18日刊行予定

●ご注文・お問い合わせ先

(株)ぎょうせい

フリーコール 0120-953-431
フリーFAX 0120-953-495
Web サイト <http://gyosei.jp>
e-mail Eigyo-edu@gyosei.co.jp

●「きょういくプレス」無料メール配信サービスのお申し込みを承り中です。右のQRコードから簡単にお手続きいただけます。この機にぜひお申し込みください!



◎取扱者